

# レイシズムと浄土真宗

〳 関東大震災朝鮮人虐殺事件100年を迎えて〳

## 井上慶永

(二財) 同和教育振興会理事／連研中央講師

### 1. はじめに

今年、関東大震災から100年に当たります。1923年9月1日午前11時58分、相模湾を震源とした大規模地震が発生しました。マグニチュードは7.9。関東一円で震度6を観測し、翌2日までにマグニチュード7を超える余震が計5回ありました。東京、神奈川を中心に甚大な被害が出ましたが、本震が昼時だっ

たことも重なり、火災による被害も甚大でした。東京の3分の2が焼失したとされ、震災による直接死・行方不明者は約10万5千人にのぼりました。

この大震災直後から在日コリアン（以下、本稿ではその歴史的差別性も含めて「朝鮮人」と表記します）に対するさまざまな流言が広がり、そのデマが元となつて多くの朝鮮人や朝鮮人に間違われた中国人、地方出身者らが虐殺されるという事件が起こりました。この朝鮮人虐殺事件

から100年を迎えるにあたり、改めてその背景にある「レイシズム」という差別主義に向き合い、浄土真宗をよりどころとする私たちの課題を確認してみたいと思います。

### 2. レイシズムとは

レイシズムとは「人間には人種、民族、出自などによって根本的な優劣の差違があつて、それは不変である」と考える主義のことを言います。もとより、人間は自分とは違う集団に対して恐れからくる嫌悪の感情を持つたり、自らの集団を中心に物事を考えたりすることがある生物です。しかしレイシズムはそれらとは異なります。人間が生み出した差別主義で、17世紀のフランスで貴族が自らを特権階級として正当化するために考えたのが最初だと言われています。やがて19世紀にはいると、西洋諸国がアフリカからの黒人奴隷売買（大西洋奴隷貿易）やアジア・アフリカの植民地政策の推進

にレイシズムを利用し、「白人種」「黄色人種」「黒人種」など肌の色で優劣をつけ始めます。白人種とそれ以外を普遍的な優劣で固定化し差別する思想は、植民地主義による搾取を正当化し、進化論の悪用により優生思想と結びつきます。進化の頂点が「白人種」で、猿との間に「有色人種」「黒人種」を位置づけ、人種隔離や他人種との結婚禁止につながっていきます。レイシズムがエスカレートすればどうなっていくかは、ナチスドイツのユダヤ人虐殺、アメリカの奴隷制度、南アフリカのアパルトヘイトなどで明らかです。もちろん、レイシズムは国際社会において否定されています。1950年、ユネスコは「人種の生物学的な差異は存在しない」と断言し、1965年には国連において「人種差別撤廃条約」が採択され、現在日本を含む世界150カ国が批准しています。しかし、今なお世界中でレイシズムが払拭されたとは言えません。近年で言えば、ジョージ・フロイド事件に端を発しアメリカのみならず世界

的に広がった「Black Lives Matter（黒人の命は大切等と訳される）」運動でも明らかですし、新型コロナウイルスのパンデミックを契機とした東洋人差別も、レイシズムが背景にあります。

日本においても、レイシズムが「アイヌ差別」「沖縄差別」などを引き起こしています。同じ黄色人種でも民族という括りでレイシズムが差別を生み出すのです。レイシズムによって、大和民族こそが「正統な日本人」だという偏見をもとに、多くの日本人が優越感と排除の心理をすり込まれてきました。白人種には憧れと劣等感を抱き、他の有色人種に対しては、暴力的とか楽天的で何も考えていないなどのレッテルを貼り、同じ黄色人種（東洋人）に対しては、民族を分けた上で、正統な日本人（大和民族）が一番優秀で他の民族は劣っているという認識に立つ。このような感覚は、現代日本にも根強くはびこっています。私たちが作り出した差別社会の現実です。朝鮮人に対する民族差別に絞ってみても、例え

ば、京都朝鮮学校襲撃事件（2009年）や、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、さいたま市が備蓄用マスクを幼稚園保育所などの職員に配布する際、埼玉朝鮮幼稚園が排除された問題（2020年）など、レイシズムによる差別事件は今でも惹起しています。この背景を考えると決して見過ごしてはいけない事件が、関東大震災時の「朝鮮人虐殺事件」でありましょう。

### 3. 朝鮮人虐殺事件とは

内閣府『災害教訓の継承に関する専門調査会報告書』（平成21年3月）によると「関東大震災時には、官憲、被災者や周辺住民による殺傷行為が多数発生した。武器を持った多数者が非武装の少数者に暴行を加えたあげくに殺害するという虐殺という表現が妥当する例が多かった。殺傷の対象となったのは、朝鮮人が最も多かったが、中国人、内地人も少なからず被害にあった。加害者の形態は官憲に

▶執筆者プロフィール



井上 慶永  
いのうえ けいえい

【略歴】

1964年生まれ。龍谷大学大学院修士課程修了（真宗学）。基幹運動専門委員。連研中央講師。同和教育振興会理事。得度習礼・教師教修所講師（人権問題）。『講座同朋運動』出版委員長。新潟教区巻組妙光寺住職。

【著作・論文】

『講座 同朋運動』1. 2. 4. 5巻 共著  
「門信徒会運動に関する一考察」同和教育論究28号  
「法衣の色に関する一考察」同和教育論究32号  
「権威の象徴と御同朋」同和教育論究34号  
「原発と向き合う念仏者の歩み」同和教育論究36号

よるものから官憲が保護している被害者を官憲の抵抗を排除して民間人が殺害したもので多様である」とあります。

震災直後から、関東一円で、「朝鮮人が暴動を起こした」「朝鮮人が井戸に毒を入れた」「朝鮮人が略奪・放火した」などの流言が広がりました。流言の発生源に関しては、民間からの自然発生説、官憲による意図的流布説、双方発生説等諸説ありますが、発生地も含め厳密に特定することは史料的に難しいと言われて

います。

流言の発生源はわかりませんが、間違いないことがあります。それは、震災当初から警察が朝鮮人に関する流言・誤認情報を率先して流し、民衆に警戒を促したことです。『関東大震災時の朝鮮人虐殺とその後』（山田昭次著・創史社）によれば、震災当日の夕方には警察からの流言があり、二日後の朝には、治安当局（府県知事など）に「朝鮮人は各地に放火し、東京市内において爆弾を所持し、石油を注いで放火する者もある。各地にお

いて朝鮮人の行動に対して厳密な取り締まりをするよう（趣意）」との電報が発せられています。この流言は、末端の行政組織まで伝わります。震災直後で情報が少ない中、政府や警察が流言を否定せず、むしろ広めていく役割を担ったということです。そして、官憲によるこのような流言の拡散が、結果的に軍隊・警察・民衆による朝鮮人虐殺へのためらいが払拭された一つの要因とも言われています。

虐殺は、既に震災当日の晩から起こっています。自警団が各地で組織され、東京では自警団が各地域で検問所を設け、通行人たちに教育勸語を言わせるなどして朝鮮人かどうかを判断し、竹槍などで虐殺していきました。さらに、一部の軍隊・警察も虐殺したことは多くの地域住民が目撃しています。このような虐殺が起きた背景として指摘されているのが、日本による朝鮮植民地化と三・一運動により日本の中で「朝鮮人は日本人より劣っている」「それなのに反乱を起こす

なんてけしからん」「朝鮮人はよからぬ事を企んでいる」という意識が植え付けられていったことです。これこそまさにレイシズムによる差別です。

最終的な虐殺数は不明で、戦前の一番少ない調査で約230人（司法省）。一番多い調査では6千661人（在日本関東地方罹災朝鮮同胞慰問班）とあります。なぜこのような差があるのかという点については、遺体が焼かれたり埋められたりして、殺害の証拠隠滅がはかられたためという指摘があります。また、のちの裁判でも軍隊や警察による殺害は不問に付されます。罪を問われたのは自警団などの民間人だけ、それもごく少数でした。このような検挙や裁判の不当性によって、朝鮮人虐殺事件の全容解明は難しく、検証は十分になされませんでした。その結果、政府や行政の責任も曖昧となり、今でもレイシズムによる朝鮮人差別が招いた虐殺事件という事実や教訓が活かされていません。例えば、毎年秋に東京で行われていた朝鮮人犠牲者追悼式に歴代知

事が送っていた追悼文を、小池都知事が2017年より6年連続で送らないという事態も起こっています。また、2016年の熊本地震の際「熊本朝鮮人が井戸に毒を投げ込んだ」等のデマがSNSに投稿されるなど、災害が起こるたび虐殺事件の時と同じような流言がインターネットで流布されさまざまな差別を引き起こしていることも、見過ごせない現実です。

#### 4. 教団における

#### レイシズムの現実

私たちの教団とレイシズムにはどのような関係があるでしょうか。1997年度に実施した差別法名・過去帳調査において、「差別につながる添え書き」を調査する項目がありました。その中に「国籍や民族の差別的な記載がある」という項目に23教区106カ寺が該当していたとの報告があります。この調査をするにあたって作成された『調査の手引き』に

は、「添え書き等の記載によって被差別身分であることが判明する過去帳があります（中略）記載される内容が知られることによって、その遺族・子孫が差別を受けたら、また、明らかに不利益をこうむると考えられるものです」とし、その例として、「鮮人・半島人・南鮮・北鮮・蛮人・蛮族・土人・旧土人など」の呼称が表記されている可能性を提示しています。この時点で、教団内にレイシズムによる朝鮮人差別、アイヌ差別、沖縄差別などの現実があると認識していたということでしょう。そして、調査結果について当時の『宗報』「基幹運動のページ」に掲載された調査報告書によれば、その具体的記載事実として「鮮人・朝人・朝鮮人・半島人・沖繩人」などの表記があったことが示されています。それぞれの記載年代は明らかではありませんが、浄土真宗の教えに生きぬかれた方々の記録を記載するはずの寺院過去帳にそのような記載があったことからすれば、私たちの教団にレイシズムに基づく差別の現実が

あることは明らかです。すでに、教団としてこの調査の『まとめと課題』の中で、「差別につながる添え書き」として報告されたものであっても、人権侵害に結びつく記載であり「差別添え書き」として受け止めていく旨が示されています。しかし、調査結果が報告された以降、教団としてこの問題を正面から受け止め、課題として取り組んだかと言われれば、決して十分な取り組みがなされてきたとは言えません。他にも、本願寺教団が日本の植民地政策に果たしてきた役割なども含め、レイシズムは遠い世界の話ではありません。私たちは、この現実から出発せねばならないでしょう。

## 5. おわりに

### 「私たちの取り組み」

私たちの教団は、同朋運動に取り組む中で、み教えをよりどころとし、部落差別をはじめとするさまざまな差別の現実に向

き合うことからはじめ、「差別・被差別からの解放」をめざしています。差別している人も、差別されている人も「差別」から解放されていく営みです。

世界に未だ<sup>うごめ</sup>蠢くレイシズムのうねりは、日本社会にも確実にあります。そして、その社会は私たち一人ひとりが作り上げているものです。一生涯煩惱を抱え、放<sup>ほう</sup>つておけば煩惱をよりどころとして生きる私たちですが、煩惱を抱えながら阿弥陀如来の本願力をよりどころとする人生が与えられています。レイシズムは、人類普遍の苦悩ではなく、人間が作り出した差別主義です。人間が作り出したものは人間の力で変えられます。日本社会の中で暮らしていると、レイシズムが生み出す差別を差別だと感じにくいことが多く、私たちには関係ないと思うこともあるでしょう。しかし、私たちの社会にも、私たちの教団にもレイシズムは浸透しています。朝鮮人虐殺事件から100年を迎え、改めてレイシズムが生み出す差別の現実から出発し、「差別・被差別

からの解放」をめざして取り組んでいきましょう。

#### 〈参考・引用文献〉

- 山田昭次 『関東大震災時の朝鮮人虐殺とその後』 創史社
- 藤野裕子 『民衆暴力―一揆・暴動・虐殺の日本近代』 中央公論新社
- 原由利子 『日本にレイシズムがあることを知っていますか』 合同出版
- 梁 英聖 『レイシズムとは何か』 筑摩書房
- 『1997年度差別法名・過去帳調査記録集』 基幹運動本部事務局
- 『差別法名・過去帳調査の手引き』 基幹運動本部事務局
- 『差別法名・過去帳調査 まとめと課題』 基幹運動本部事務局